

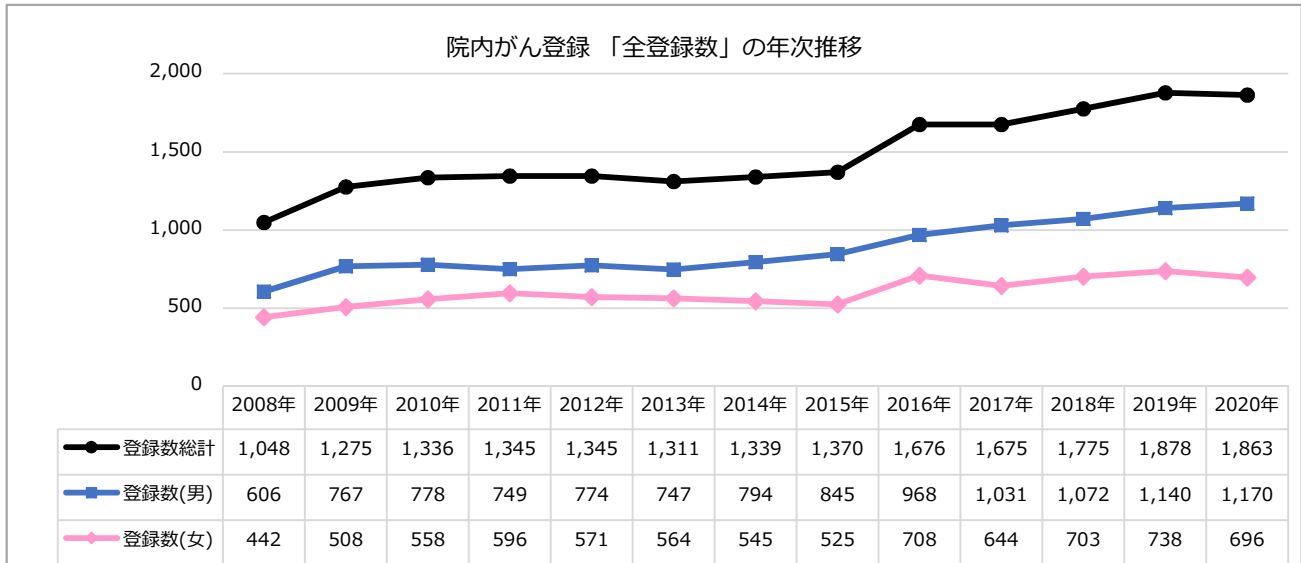


「院内がん登録」からわかる

君津中央病院のがん診療 ～2020年全がん～

君津中央病院は、地域の基幹・中核病院として高度専門医療を担っています。がん医療もそのうちの一つで、当院に入院される方の約2割ががんの患者さまで、2020年にはがんの手術を年間849件行いました。当院は、お住いの地域によって提供されるがん医療の質の差をなくすことを目的として地域ごとに設置されている「地域がん診療連携拠点病院」です。その指定には、様々な要件が定められており、「院内がん登録」の実施もその一つです。「院内がん登録」は、施設が持つがん診療の機能を明らかにしてその情報を分析することにより、質の高いがん診療の体制づくりに役立てられることを目的に、実施されています。この「院内がん登録」のデータを基に、当院のがん診療の実態をお伝えします。

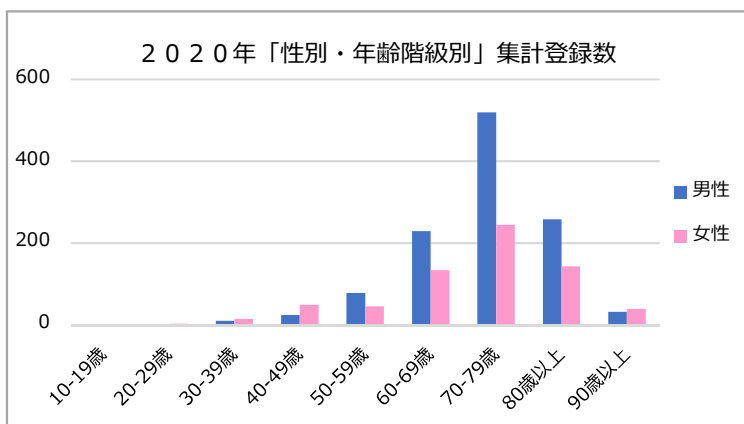
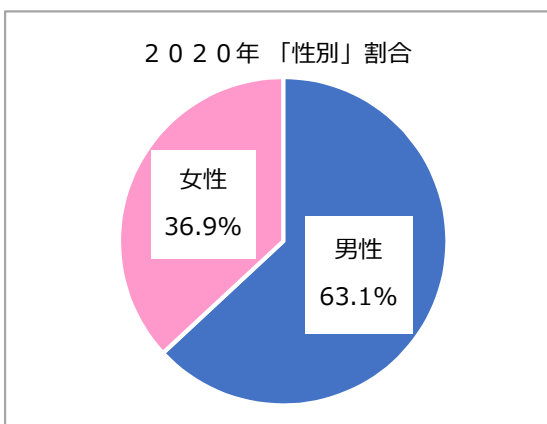
院内がん登録「全登録数」の年次推移 (セカンドオピニオン等を含む)



上のグラフは、当院をはじめて受診した「がん」の登録数（セカンドオピニオン等含む）を示したものです。2016年に大幅に登録数が増えています。これは、2016年4月に泌尿器科の通常診療を再開し、前立腺がん、膀胱がん、腎・尿管がん等の治療が可能となったことや他の診療科においても診療体制の充実を図ったことによります。2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、2月から登録数が減少しましたが、7月から前年を上回る登録数に回復し、通年では前年比で0.8%の減少でした。合計で1,863名*の方が当院にがんで初診され、そのうちの約8割の1,496名*の方が当院で治療を開始しています。

(*複数のがんで受診された方は、がん種ごとにカウントしています。)

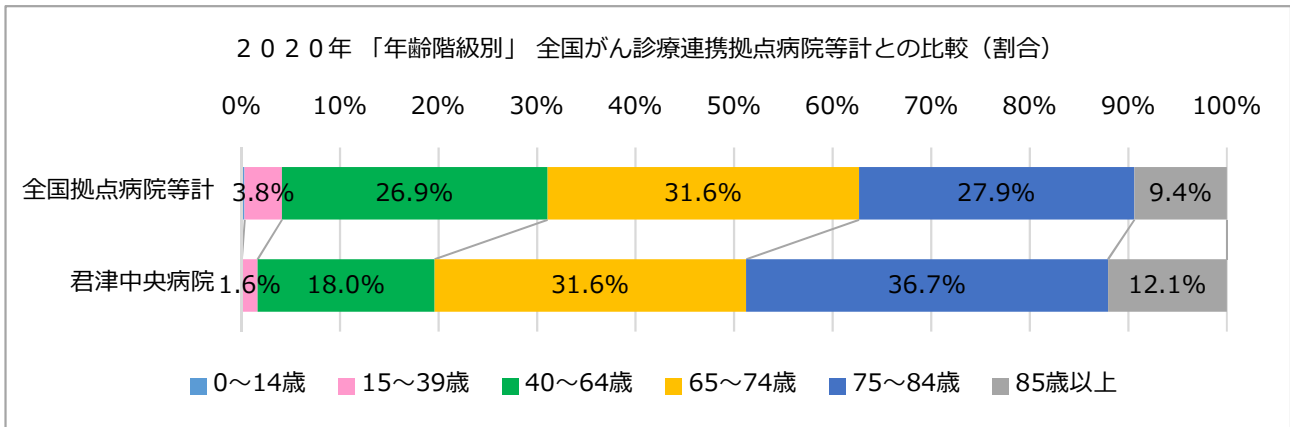
2020年「性別・年齢階級別」集計登録数 (セカンドオピニオン等を除く)



年度ごとの診療体制によって若干の変動はありますが、当院は毎年ほぼ6対4で男性の登録数が多いです。

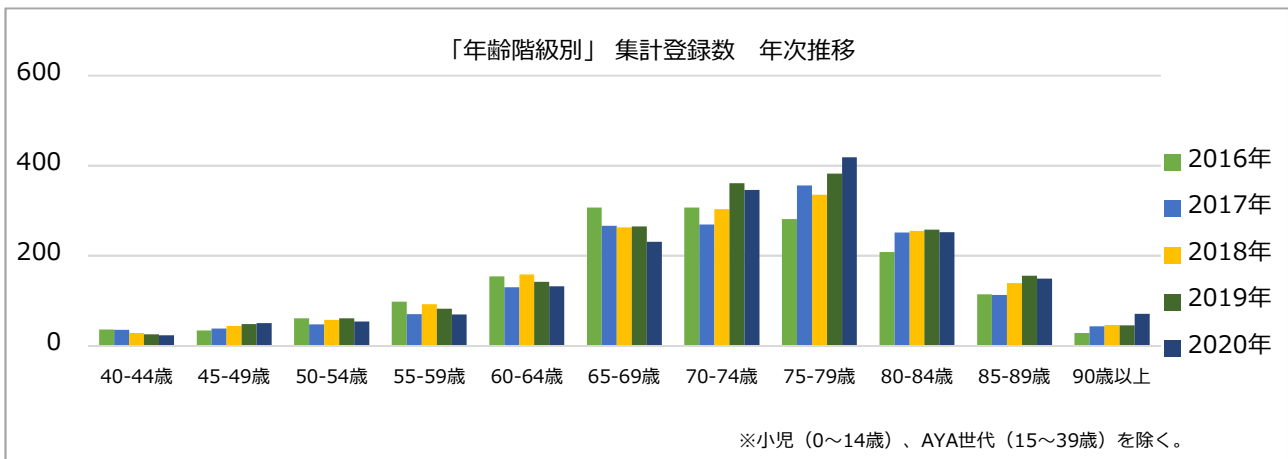
当院にがんで受診する方の平均年齢は、全体72.3歳、男性73.1歳、女性71.0歳です。集計登録数全体では男性が多いですが、若い年齢層は女性が男性を上回っています。がんの発症年齢は、がんの種類によっても大きく異なり、乳がんや子宮頸がんなどでは比較的若いうちに発症することが多いです。

2020年「年齢階級別」全国がん診療連携拠点病院等計との比較（割合）



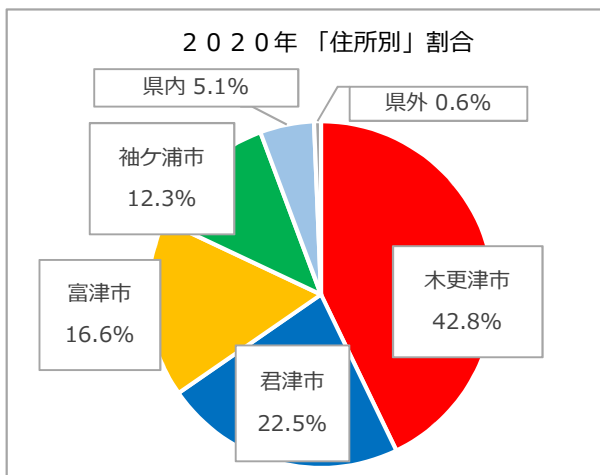
上のグラフは、がんで受診した方の年齢構成を示したものです。75歳以上の高齢者の割合は、全国拠点病院等計の約37%に対して、当院は約半数を占めています。年齢構成は、地域の人口構成や診療しているがんの種類に影響されます。

「年齢階級別」集計登録数 年次推移



上のグラフは、当院を受診した方の年齢を5歳で刻み、年次推移を表したものです。高齢化が急激に進んでおり、50～60歳代は減少、70歳以上が増加傾向です。特に、2020年は90歳以上の超高齢者の受診が目立ちました。

2020年「住所別」登録数の割合



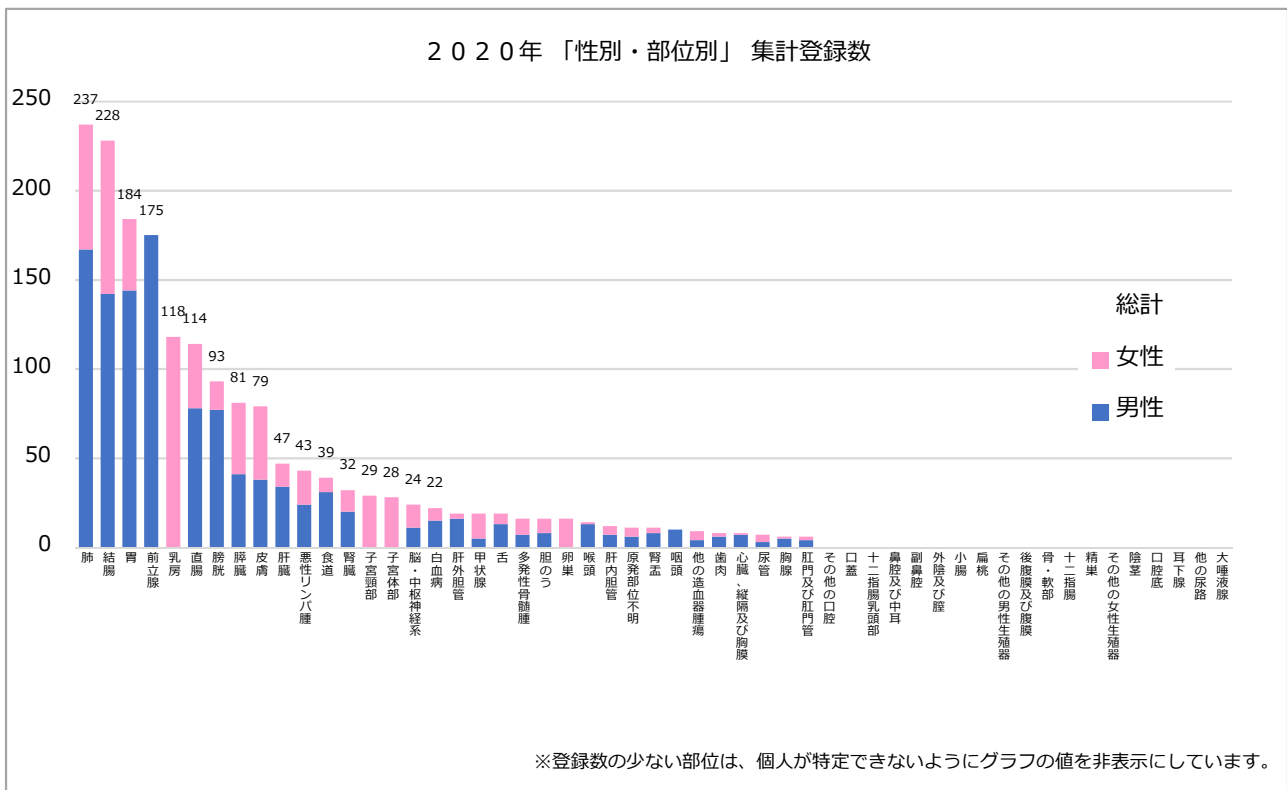
当院を受診される方は、君津保健医療圏（木更津市・君津市・富津市・袖ヶ浦市）にお住まいの方がほとんどです。

当院は、国のがん医療の均てん化（全国どこにいても標準的な専門医療が受けられるよう、医療技術等の格差の是正を図ること）の理念の基に「地域がん診療連携拠点病院」として、地域のみなさまが安心して質の高い専門医療が受けられるがん診療の体制づくりに努めています。

ちなみに、2017年は君津保健医療圏にお住まいでがんと診断された方の約半数が当院で治療を開始しています*。

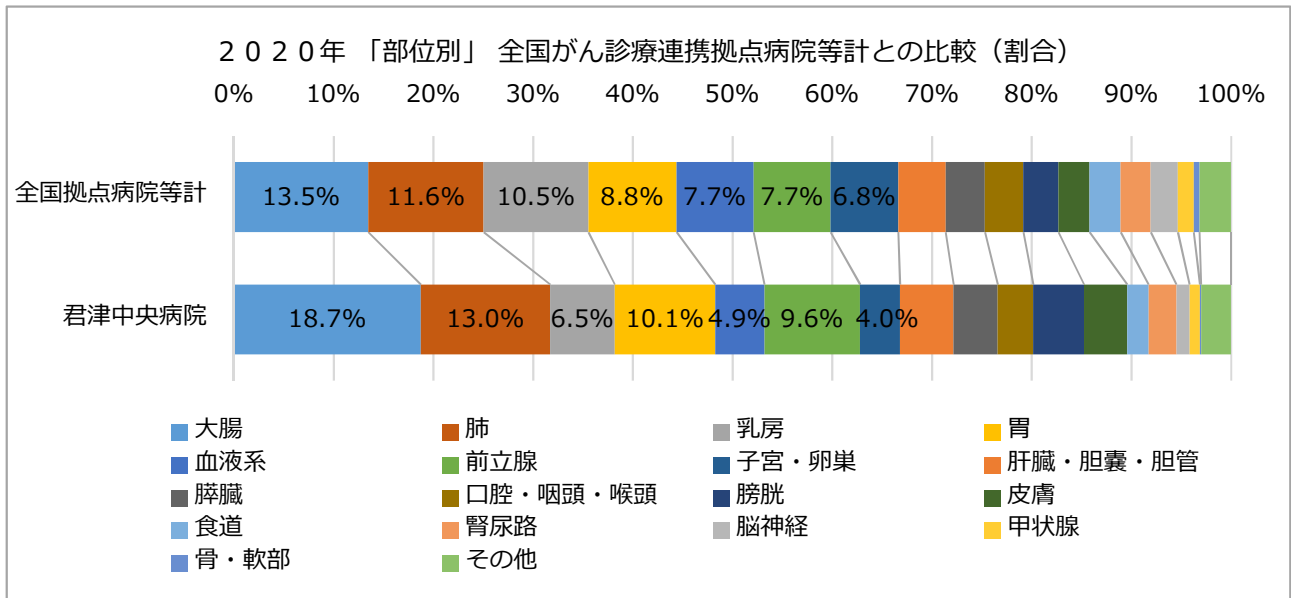
(*全国がん登録データより算出)

2020年「性別・部位別」集計登録数



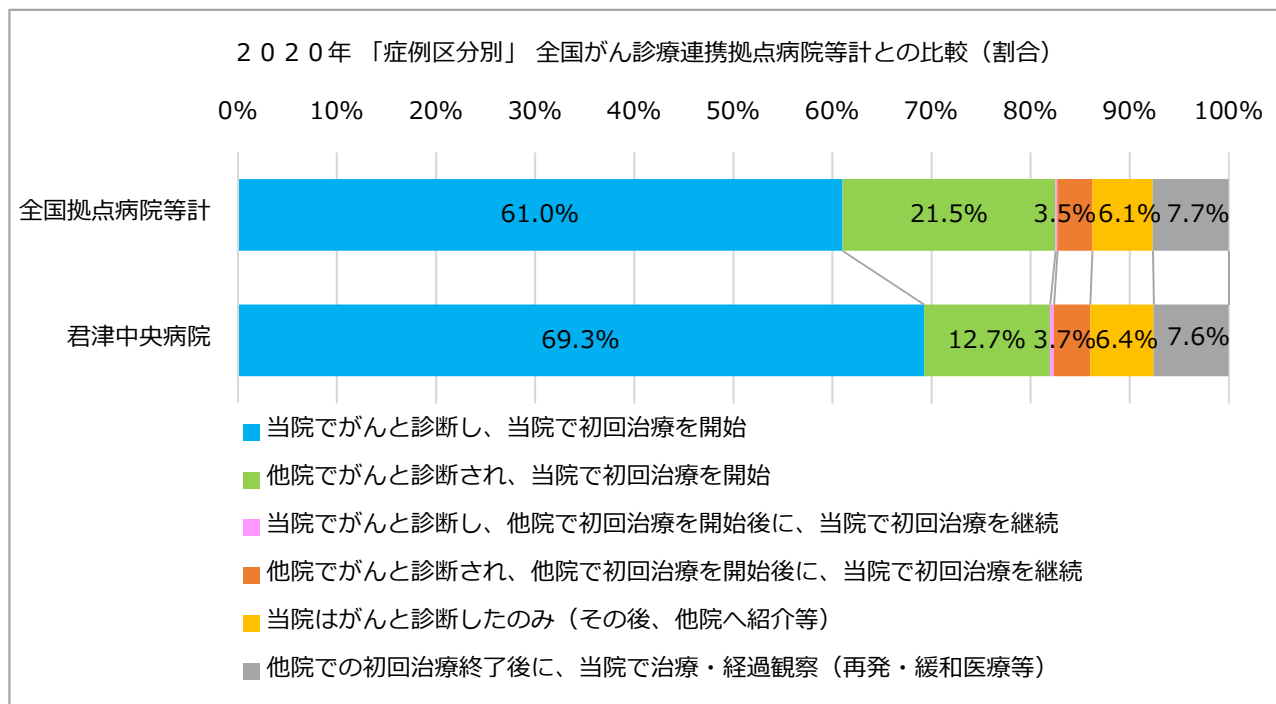
上のグラフは、当院の部位別の集計登録数を示したものです。がんがあらゆる部位に発生すること、また、当院が「地域がん診療連携拠点病院」として多くの部位のがんの診療を行っていることを知っていただくために、全国集計で公表されている部位より詳細な分類で表示しています。

2020年「部位別」全国がん診療連携拠点病院等計との比較（割合）



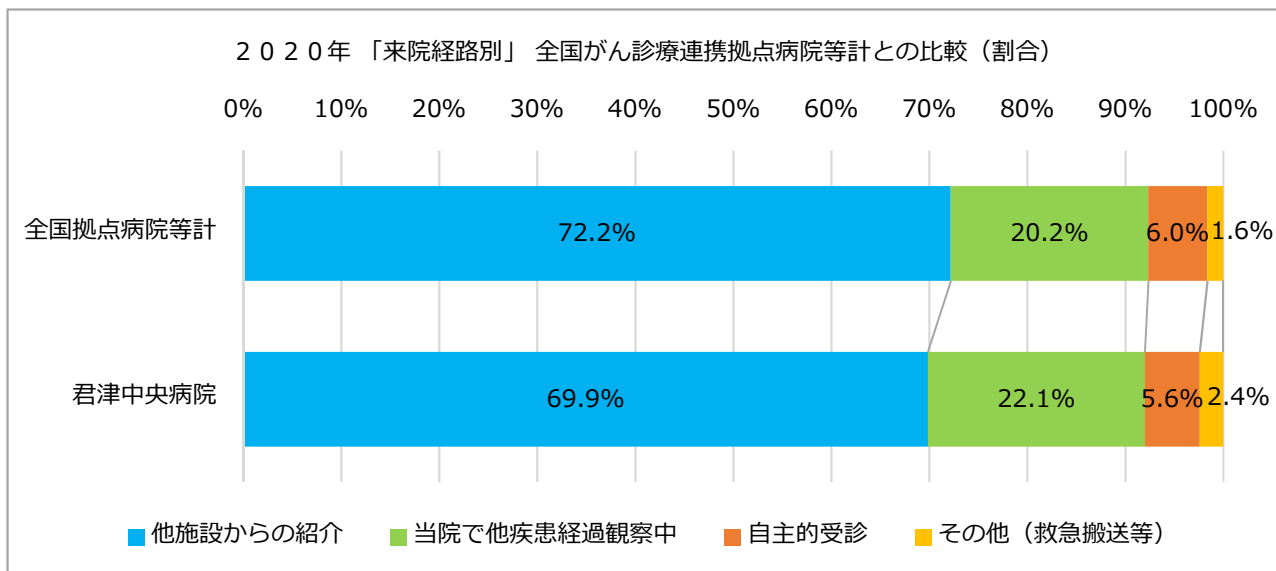
上のグラフは、がんの部位を大きく18部位に分け、当院と全国拠点病院等計の登録集計数の割合を比較したものです。当院の割合は、大腸、肺、胃、前立腺が高く、乳房、子宮・卵巣、血液系（悪性リンパ腫・白血病・多発性骨髄腫等）が低いものの、全国拠点病院等計の割合とほぼ一致しています。これは、当院が「地域がん診療連携拠点病院」として、特定の部位に偏ることなく、あらゆる部位のがんに対する診療体制を整えていることを示しています。

2020年「症例区分別」全国がん診療連携拠点病院等計との比較（割合）



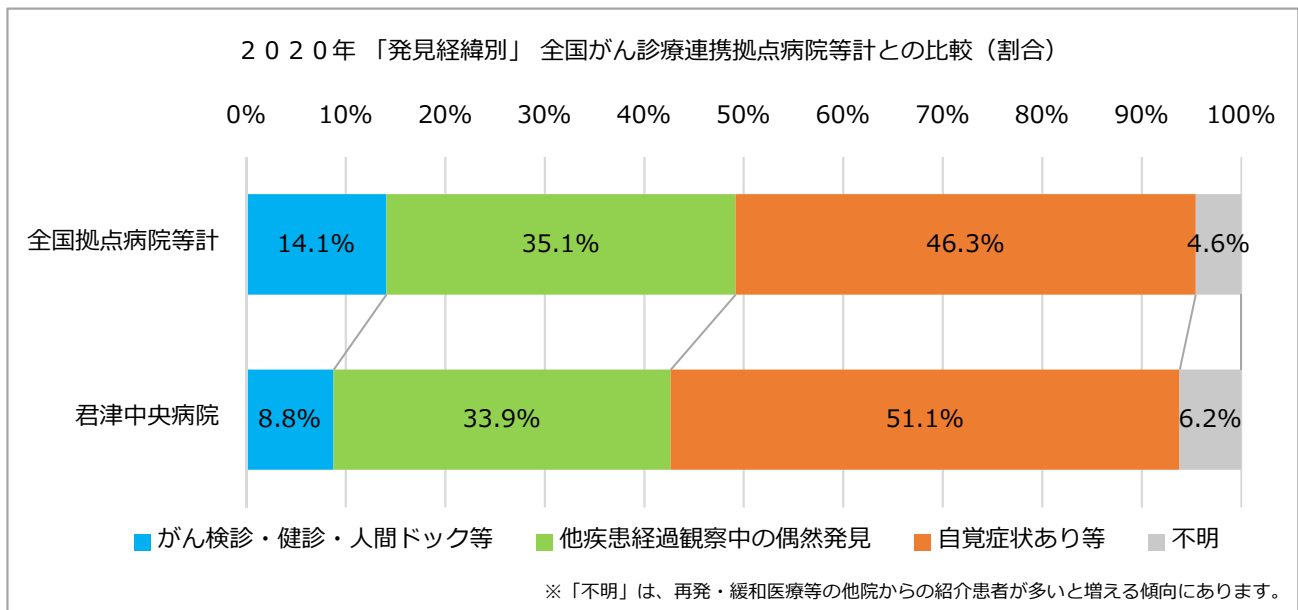
上のグラフは、がんの診断および治療の過程で、どのように患者さまと関わったかを示したものです。全国拠点病院等計と比較すると、当院は、診断から治療まで継続して受診されている方が多いのが特徴です。初回治療、診断のみ、初回治療終了後の再発・緩和医療等の割合は、全国拠点病院等計とほぼ同じであり、「地域がん診療連携拠点病院」として、診断、治療、そして緩和医療まで、あらゆる病期のがん診療に対応しています。

2020年「来院経路別」全国がん診療連携拠点病院等計との比較（割合）



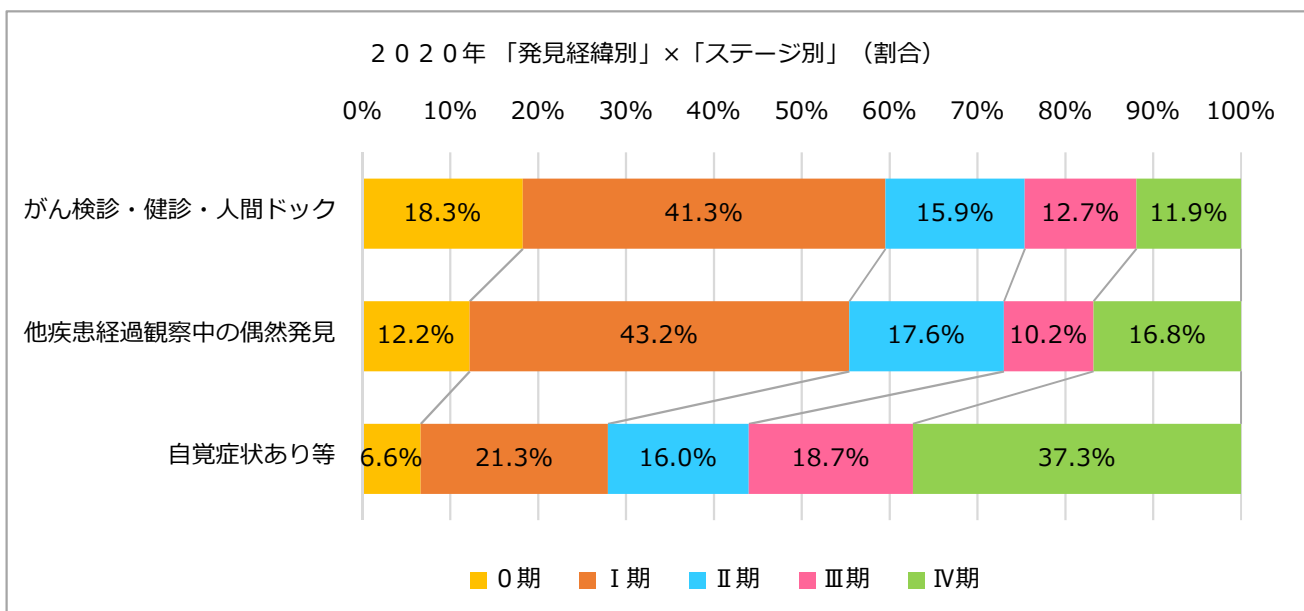
上のグラフは、患者さまがどのようにして自施設を受診したのかを示したものです。当院は、「他施設からの紹介」が全体の69.9%を占めており、「地域がん診療連携拠点病院」としてかかりつけ医や検診機関から多くの患者さまの紹介をいただいています。「自施設で他疾患経過観察中」とは、当院で他疾患の診断や治療中にがんが発見された方です。がんの疑いがあり当院を受診したが、精査によってがんが否定され、その後の当院でのフォローアップ中にがんが発見された方も含まれます。「自主的受診」とは、紹介状を持たずに当院を受診した方です。症状が悪化して救急車で当院へ搬送され、病期が進行した状態でがんが発見される方も少なくありません。がんが疑われる症状のある方は、すぐに医療機関を受診して下さい。

2020年「発見経緯別」全国がん診療連携拠点病院等計との比較（割合）



上のグラフは、がんが診断されるきっかけを示したものです。当院を受診される方は、自覚症状によりがんが発見されたケースが半数を超えており、「がん検診・健診・人間ドック」をきっかけに受診する方が、全国拠点病院等計14.1%と比較すると、8.8%と少ないです。がんの早期発見のために「がん検診・健診・人間ドック」を受けましょう。

2020年「発見経緯別」×「ステージ別」（割合）



上のグラフは、当院で初回治療を開始した方について、発見経緯別にがんのステージ別分類*を示したものです。がんが0期・I期で発見される割合は、発見経緯が「がん検診・健診・人間ドック」が59.6%、「他疾患経過観察中の偶然発見」が55.4%対して、「自覚症状あり」の場合は27.9%です。0期・I期の多くが内視鏡的・外科的に治療が完結することから、がんの完治には自覚症状出現前の早期発見が重要です。新型コロナウイルス感染症拡大の影響でがん検診を受けることを控えていた方は、適切なタイミングでがん検診を受けましょう。

*がんの進行の程度は、「ステージ（病期）」として分類し、ローマ数字で表記することが一般的です。院内がん登録では、UICC TNM分類及びがん登録のルールに従い集計しています。がんは、早期から進行するにつれて、0期またはI期からIV期に分類されます。